広報 なきじん

第27号
編集発行　今帰仁村役場
企画室
TEL 098056-2101
印刷　沖商印刷所
名護市字名護358番地

今帰仁の人口
昭和52年8月31日現在
男　5,243人
女　5,409人
計　10,652人
世帯数　2709

盛況のうちにおわる
今帰仁村産業まつり

民具・資料展示に人気
一六一九人が参観

恒例の「今帰仁村産業まつり」は、十四日から十七日の四日間にわたって開催され、盛況のうちに無事全日程を終了しました。

総合展示会は、十四日の午前十時から十七日の午後二時まで中央公民館で行なわれ、ホール一ぱいに各農家出展のニガウリ、カボチャ、葉タバコなどの農作物や手づくりの造花、テーブルクロス、カゴ、日頃家庭で作っているラッキョウ、大根のつけ物や味噌などの農産加工品が展示されました。各コーナーには、役場各課の資料や北部農業改良普及所、北部家畜衛生保健所の参考資料の展示。小中学校生徒の図画や工作、書道。村内盆栽クラブ自慢の盆栽も展示され参観者の目を楽しませてくれました。また公民館前では生活改善グループのミカン、パイン等のジュースやお菓子など手づくりの試飲食会が行なわれ好評を博していました。

いつまでもお元気で
今年のトーカチ祝は27人（村内）

「敬老会」は、敬老の日の十五日午後二時、村役場ホールにおいて村内の七十五才以上のお年寄り五百五十人をお招きして行なわれました。式は、村長の挨拶各来賓の挨拶の後、今帰仁小学校の石川須賀子さんが「おじいさん、おばあさんおめでとうございます。皆さんが今まで経験し頑張ってこられた教えを私達は受けつぎ、今よりももっと住みよい社会にしたいと思います。皆さんもお年を忘れてますます元気で頑張って下さい」と長い人生を歩んでこられたお年寄りに感謝のことばを送り、盛んな拍手をうけていました。

引き続き余興が行なわれ村婦人会、村老人クラブの踊り、今泊青年会の棒、中央保育所の園児の踊りなどが行なわれましたが、曾お孫さんのかわいい演技に顔をほころばせて喜こび、敬老の日を楽しくすごしました。

なお、二十日は旧八月八日にあたり、今年八十八才を迎える人々のトーカチ（米寿）が各地で行なわれましたが、村内の七十五才以上のお年寄りは八百三十五人おられ、その内今年米寿を迎えられるのは次の二十七人の方々です。

新城ウタ　今泊六〇三
新城カマダ　〃〃一一五
島袋カマド　与那嶺五〇
西島宗次郎　〃〃三七
豊里ウシ　〃〃五六六
渡名喜マツ　城間孫吉
〃〃三
与那嶺タマ　〃〃三
与那嶺新平　崎山一一四
与那嶺マツ　諸喜田善次郎　〃〃一〇三
金城カマタ　越地三六
大嶺武彦　〃〃一五
仲宗根二七八
吉田ウシ　新城盛吉
玉城一九七
湧川一八九四
澤岻安豊　〃〃一五〇
宮里政清　〃〃一八一七
宮里ツル　呉我山五五〇
謝花喜元　天底一一三
〃　二九三

諸喜田さん（玉城）に県農林水産部長賞

「畜産共進会」は十四日の午前十時から村家畜市場で催され、予選を通過した牛三十六頭、豚三十頭が審査されました。審査の結果は次のとおりとなっており入賞者には数々の賞品が贈られ、日頃の畜産に対する精進を讃えました。

黒毛和種（未経産の部）
優等＝大城喜英（平敷）
一等＝小那覇安健、小那覇安啓（以上渡喜仁）
二等＝上間久仁、大嶺英昭（以上越地）

黒毛和種（経産の部）
優等＝諸喜田清幸（玉城）
一等＝大城喜英（平敷）当間正安（与那嶺）小浜守儀（玉城）
二等＝上間蔵一（平敷）当山清広、大嶺英昭、玉城真治（以上越地）松田則明（仲宗根）石川清太郎（渡喜仁）仲原武一（謝名）

肥育牛の部
優等＝嘉数安喜（今泊）
一等＝玉城久松、伊集万伸（以上平敷）古堅盛儀（越地）山内昌雄（与那嶺）安谷屋忠吉（勢理客）
二等＝玉城恵（今泊）山内昌光（与那嶺）大城徳吉（仲宗根）豊里友進、謝花喜徳、豊里友邦（以上渡喜仁）内間繁樹（諸志）高良岩松（崎山）大城清正（天底）

子牛の部
優等＝諸喜田幸源（勢理客）
一等＝諸喜田清幸（玉城）石川清太郎（渡喜仁）
二等＝玉城真治（越地）仲原武一（謝名）

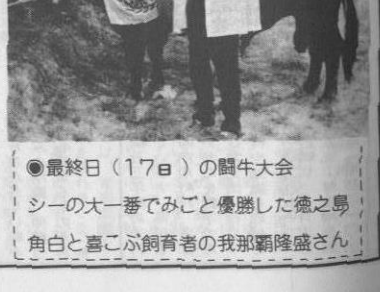
種豚（未経産の部）
優等＝山城福福（仲尾次）
一等＝松田勝男（越地）波名城政賢（天底）具志忠吉（渡喜仁）
二等＝仲本幸信、仲本達美（以上崎山）仲村守弘（勢理客）玉城真治（越地）

種豚（経産の部）
優等＝大城修（謝名）
一等＝当山清宏、松田勝男（以上越地）田港朝明（湧川）
二等＝仲本達美（崎山）謝花喜秀（天底）具志忠吉、具志忠二郎（以上渡喜仁）

種雄豚の部
優等＝具志忠吉（渡喜仁）
一等＝照屋全行（渡喜仁）仲本達美（崎山）田港朝明（湧川）

また、今回は県農林水産部長賞、県畜産会長賞、村農協長賞が優秀な飼育者に贈られることになり、県農林水産部長賞が黒毛和種・経産の部の諸喜田清幸さん（玉城）に、県畜産会長賞が種雄豚の部の具志忠吉さん（渡喜仁）に、村農協長賞が各部門優等者にそれぞれ贈られています。

今泊など百%納税
畜産共進会の当日、村内の納税表彰もあわせて行なわれており、今泊、諸志、仲尾次、平敷、越地、玉城、呉我山、勢理客、渡喜仁、上運天の十カ部落が納税百%の表彰をうけています。ご協力ありがとうございました。



◉最終日（17日）の闘牛大会
シーの大一番でみごと優勝した徳之島
角白と喜こぶ飼育者の我那覇隆盛さん

九二頭が成立—セリ市
十六日の十二時からは家畜セリ市の日。村内外から百十二頭の牛がセリに出され、九十二頭の牛が成立しました。今回のセリ市は前回の七月十六日に比べて成立率は五%下がりましたが一kg当りの単価が前回の七百三十六円から七百八十三円とチョッピリ高価になっており飼育者にとっては嬉しいニュース。今セリ市の一kg最高単価は、島袋直三さん（与那嶺）の九百七十四円。一頭当り最高牛は嘉数安喜さん（今泊）の六十四万五千円でした。

なお、当日の統計表は下のとおりとなっています。

総計表　今帰仁村家畜市場
昭和52年9月16日

9月16日	頭数	総体重	総金額	1頭当体重	1頭当金額	1kg当単価	成立牛
成立牛	92頭	46,177kg	36,152,千円	501kg	392,956円	783円	82%
不成牛	20	7,337kg	4,645,千円	366kg	232,250円	633円	18%
計	112	53,514kg	40,797,千円				

やめようなくそうヤミたばこ
啓発運動展開中

市町村たばこ消費税は、自主財源である市町村税に占める比重が大きく、貴重な財源の一つです。

特に地方財政の危機がきけばれている折り、市町村税の適正確保は次くことのできないものです。

このときにあたり、県や村では「ヤミたばこをなくし、県外へ出張、旅行の際は県内でたばこを購入し持参しましょう」の啓発運動を実施し、自主財源であるたばこ消費税の拡充強化を図っています。

ちなみに、昭和五十一年度において県・市町村に納付されたたばこ消費税額は総額で三十二億千八百五十万円に達しており、特に市町村税に占める比重は年々高まっています。また、日本専売公社の調べによると県内の〝ヤミたばこ〟の量は昭和五十一年度において約三億本に達し、たばこ消費税に換算して五億七千万円の莫大な金額になります。

このように、ヤミたばこ〟の横行は県・市町村の自主財源である市町村たばこ消費税をむしばむだけでなく民主社会のモラルにかかわる重大な問題を提起しています。

村民のみなさま、村内から〝ヤミたばこ〟をなくすようご協力をお願いいたします。

県・市町村たばこ消費税について

1. 昭和51年度県内で売られた本数
   総消費本数　24億8806万4630本
   月平均　2億733万8179本
   今帰仁村で売られた本数
   総消費本数　2639万5837本
   月平均　219万9653本
2. 今帰仁村の喫煙人口
   男子3,369人×0.751（喫煙率）=2,530人
   女子3,415人×0.154（喫煙率）=　526人
   村喫煙人口計　3,056人
3. 全国1本当平均定価額は年度ごと改定される。それによって県および市町村たばこ消費税の課税標準算定の額も次のように改定されています。
   50年4円437でした　51年4円674でした
   52年6円701です。
4. 税額の算出
   昭和51年度中に売られた総消費本数を月平均本数にて、52年度の課税標準算定の基礎となる額で算出した場合
   沖縄県
   （全国1本当平均定価格）×（県の月平均消費本数）=（税率）（税額）
   6円701×207,338,179本×0.103=1億4310万5430円
   今帰仁村
   （村喫煙人口）
   6円701×3,056人 / 267,730人（県総喫煙人口）×207,338,179本×0.181=285万9790円
   昭和52年度たばこ消費税見込額
   沖縄県　143,105,430円×12ヶ月=17億1726万5160円
   今帰仁村　2,859,790円×12ヶ月=　3431万7480円
5. たばこ消費税とヤミたばこ
   県内のヤミたばこは依然として多く年間約3億本以上と推定されています
   たばこ消費税は沖縄県内で公社が販売した国内たばこと輸入たばこの総本数で税額の算出にもとづいて県および市町村に納税している仕組です。
   したがってヤミたばこがなくなることにより次の計算（例）の分だけ県市町村役場の財政が豊かになることになります。
   〔例〕
   沖縄県
   6円701×300,000,000本×0.103=2億706万900円
   全市町村
   6円701×300,000,000本×0.181=3億6386万4300円
   今帰仁村
   6円701×3,056 / 267,730×300,000,000×0.181=415万3320円

「ヤミたばこ」をなくすことにより年間県は2億706万900円、今帰仁村は415万3320円と財政が豊かになりますので「ヤミたばこ」をなくする様みんなで心がけましょう。

10月のカレンダー

1日(土) 古宇利小中学校体育館落成式(14:00)
　　健康相談(8:30～12:00、保健婦室)
2日(日) 今小、兼小、湧小中運動会
4日(火) 母親学級(13:30、中央公民館)
5日(水) 心配ごと相談(13:30、中央公民館)区長会(14:00、役場ホール)
8日(土) 健康相談(8:30～12:00、保健婦室)
9日(日) 第32回村陸上競技大会(8:30、村営グラウンド)
10日(月) 体育の日
11日(火) 母親学級(13:30、中央公民館)
12日(水) はしか予防接種(13:00、中央公民館、料金980円)心配ごと相談(13:30中央公民館)
13日(木) 婦人学級(14:00、中央公民館)
15日(土) 健康相談(8:30～12:00、保健婦室)第2回北部地区畜産共進会(9:00～17:00、村家畜市場)
17日(月) 三歳児健診(13:00、役場ホール)
18日(火) 母親学級(13:30、中央公民館)視聴覚機材取扱講習(14:00、中央公民館)
19日(水) 心配ごと相談(13:30、中央公民館)
20日(木) 婦人学級(14:00、中央公民館)区長会(14:00、役場ホール)
22日(土) 健康相談(8:30～12:00、保健婦室)
23日(日) 古宇利小中学校運動会
24日(月) 成人相談(10:00～15:00,平敷公民館)
25日(火) 母親学級(13:30、中央公民館)
26日(水) 心配ごと相談(13:30、中央公民館)
27日(木) 妊婦相談(13:30、役場ホール)
28日(金) 家庭教育学級(14:00、中央公民館)
29日(土) 健康相談(8:30～12:00、保健婦室)
30日(日) 国頭郡陸上競技大会(名護市陸上競技場)

フイラリヤ検診が下記の日程で行なわれます。時間はいずれも午前8:00からとなっています。

4日(火)	湧川公民館		18日(火)	今泊公民館	
5日(水)	天底	〃	19日(水)	越地	〃
7日(金)	渡喜仁	〃	〃	兼次	〃
〃	勢理客	〃	21日(金)	諸志	〃
11日(火)	呉我山	〃	25日(火)	与那嶺	〃
12日(水)	上運天	〃	26日(水)	仲尾次	〃
〃	運天	〃	28日(金)	平敷	〃
14日(木)	玉城	〃	〃	崎山	〃

夏の夜に踊る
さわやかに第2回盆まつり

九月三日、午後四時。馬場いっぱいに軽快な盆おどりのメロディーが流れ、そろいのハッピやゆかたの姿に身をつつんだ老人クラブと婦人会の方々が、日頃練習した踊りを村民の前で披露し楽しい一日を過ごしました。

〝秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる〟

「第二回今帰仁村盆まつり」は、好評だった第一回のリゾートステーションから風光明媚な仲原馬場に場所を移して行なわれ、約八百人が参加しにぎわいをみせました。今回は、やぐらも二カ所に設置し昨年の盆まつり以上の整然とした踊りを披露。集まった関係者来賓の盛んな拍手をあびていました。本村の老人クラブや婦人会の踊りの盛んなことは、内外に広く知れるところですが、踊りを通じてのリクレーションはお年寄りにとって何よりの健康法だといえそうです。踊りは老人クラブによる「老人クラブの唄」に始まり、「今帰仁村音頭」に至るまで全二十二曲を三時間にわたって踊りまくり、見物に集まった家族を喜こばしました。

引き続き、八時からは村青年会（比嘉正成会長）にバトンタッチし「エイサー大会」が行なわれました。今回の参加は、越地、玉城、天底、仲宗根の四部落、勇壮な太鼓や華麗な三味の音にあわせて口笛を吹きならし、ムードを一層盛りあげ夏の夜を祭り一色にぬりつぶしました。今回の「エイサー大会」は各チームとも甲乙がつけがたいということで審査はなく、参加全部落に表彰状と参加賞が贈られ、午後十時すぎに盆まつりの全日程を終了しました。

なお、当日収録のビデオテープは十四日からの「産業まつり」で放送され、参観者の目を引いていました。

運動会シーズン到来

三年生全員による
フォークダンス＝写真

日増しに秋の気配を感ずる今日この頃、有名なこの歌の風情が伝わる毎日が続きますが、秋といえば連想するのは何といっても運動会。

例年、運動会は各学校とも十月に集中していますが九月十日、村内のトップを切って今帰仁中学校の運動会が行なわれました。

同校では、「真剣に学習にとりくむ生徒」ということを教育の努力目標にしており、運動会も日頃の学習の発表会ということで特別な練習はなし。しかしながら、我が子の学習態度を一目見ようと集まった父兄、地域の人々の前で生徒達は堂々と各種目にとりくみ、盛んな暖かい拍手の中で「マット運動」「とび箱」「学級リレー」「障害物競争」「フォークダンス」などを披露しました。特に「みんなで踊ろう」の種目の際には、ぶっつけ本番で慣れない手つきながら、父兄と一緒になって一生懸命踊っている姿が、何ともいえずさわやかな印象を与えてくれました。

村内の各小中学校の運動会は
兼次中学校→九月二十三日
天底小学校→九月二十五日
今帰仁小学校、兼次小学校
湧川小中学校→十月二日
古宇利小中学校→十月二十三日
となっています。

二十四期生が優勝
兼中同窓生野球大会

兼次校区はもともと野球の盛んな地域

古くは、昭和初期頃から野球が行なわれ、中学校の野球部創立も村内では一番早かったという歴史を持つ学校ですが、同校区にユニークな野球大会がありますので紹介いたします。

この大会は、昨年兼次中学校の同窓生が集まり、体力増強と相互親睦をねらいとし、「第一回同窓生対抗野球大会」と銘うって始めたもので今回ですでに三回目を迎えました。

「第三回大会」は、八月二十八日と二十九日の両日同校のグラウンドと村営グラウンドにおいて行なわれましたが、今回の参加は十二チーム（第一回大会―五チーム、第二回大会九チーム）

開会式は午後八時から山内昌敬兼次中学校長、内間敏材助役も参加しはなばなしく幕をあけ、各チームとも揃いのユニフォームに身を包んで試合前からファイト満々。特に今回は〝優勝旗〟を新しく購入しておりどの同期生も必勝を期して対戦しましたが、中には三十代チームも交じっている為珍プレーも飛び出すなど終始なごやかなムード。結局チームワークと若さにものをいわせた二十四期生（二十一歳チーム）が優勝し、見事真紅の優勝旗を手にしました。（第一回―十八期生、第二回―二十二期生が優勝）

同区の同窓生達は、この大会の為にわざわざ中南部から帰郷し、参加チームも回を追うごとに増えているという盛況ぶりですが、同大会実行委員会（諸喜田義光委員長）では、今後、高校野球の春、夏甲子園大会終了日の次の日曜日に大会を催すことにしており、人間疎外のおびただしい昨今地域ぐるみの活動、仲間づくりには心暖まるものがあります。

県民手帳五三年版の予約受付をしています。県民手帳は県、県内市町村、各都道府県のすがたを数字であらわし、日常生活に役立つ最新の資料や知識も収録してあります。（定価二百円）
○予約申込締切　十月末日
○予約申込先→村役場企画室統計係（電話二一〇一）